

令和6年度 小林市立幸ヶ丘小学校 自己評価書

4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸せ」いっぱい みんなの学校 児童が「幸せ」 教師が「幸せ」 保護者・地域が「幸せ」
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察及び改善対策
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 一人一人に応じたきめ細かな指導の充実と「わかる・できる授業」づくり	1 ○NRT・CRT 学力調査全国・県平均以上 ○単元テスト 80点以上	① 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 複式解消非常勤講師=3・5年算数、4・6年国語を担当 ○ 教頭=1年算数、2年国語を担当 ○ A年度・B年度指導（国・算以外） ② 個別指導の充実 ○ 一人一人の学力分析による実態把握と個に応じた指導 ③ フロンティアタイムによる学力向上 ○ 月曜朝の活動の時間（8:30～9:00）における国語・算数の学力の定着・向上 ○ フロンティア学習週間（9月末・2月末）における管理職も参加しての補充学習 ④ 研修の充実・授業力向上 ○ 「ひなたの学び」の推進 ⑤ I C Tの活用 ○ I C T支援員との連携による教師の I C T活用能力・指導力の向上と児童の I C T活用能力の向上 ○ 情報モラル教育等の実施 ○ PCスキルアップタイムで児童のスキルアップ（火・木・金の8:05～8:15） ○ スマイルネクストなどの活用	3	3	○複式解消の成果もあり、児童の学力向上につながった。また、担任の負担軽減にもなった。 ●児童が苦手とする単元に関して、教材研究を行い、さらに細かい個別指導を行う必要がある。 ○タブレットの活用により、児童の意欲向上が図れた。さらなる学力向上をめざして、スキルアップをする時間も必要だと感じた。また、週1回のタブレット持ち帰りが定着してきたのはよかったです。 ●フロンティアタイムでは、時間もなかなか取れない上に、問題集の問題を解かせるだけの時間となってしまったため、細かな取組の計画が必要であると考えられる。 ○ICT支援員との連携がしっかりとれ、授業を行っていただきことによって、情報活用能力及び情報モラルの理解向上につながった。 ●朝の会と重なるPCスキルアップの時間がなかなか取れないため、次年度校時程の見直しが必要である。 ○スマイルネクストを宿題で活用することができた。
	2 小中一貫教育の推進と一人1研究を通した授業改善	2 ○一人1授業の実施 ○小中一貫教育の推進	① 職員研修・主題研究の充実（新しい研修制度の記録） ○ 一人1研究による授業力向上 ○ 一人1研究授業の実施 ② 小中一貫教育の充実 ○ 西小林中学校区での授業参観	2	2	○一人1授業を行うことで、お互いの授業を参観することができ、「ひなたの学び」について考えることができた。 ●主題研究の長期的な計画が示されず、全体として研究の深まりがあまりなかった。 ●授業参観日の期間が短く、無理に授業を行わなければならぬ状況があつたので、もう少し期間を長くして取り組んでもよかったです。 ●中々、他校の授業を参観することができなかつた。
	3 キャリア教育の充実	3 ○「こすもす科」100%実施 ○地域人材活用	① 「こすもす科」の計画的な実施 キャリア教育のねらいをふまえた「こすもす科」の授業の完全実施 ② 地域人材活用 ○ 「K S S V C」を活用しての地域人材による授業や活動の充実 ○ かおる幼稚園との連携（交流・職場体験）	2	3	○幸っこフェスタにおいて、地域の人材を活用したたたみ製作活動や地域の方々、市議会議員、S V Cの方、警察の方等をおよびして、熟議（話し合い）を行い、今後の未来について考えることができた。 ●地域人材活用について、もう少しいろいろなことを知っておく必要があつた。 ○かおる幼稚園との連携を図ることができた。 ●コスモス科でのキャリア教育はかおる幼稚園訪問だけになっているので、検討も必要である。
	4 読書活動の推進	4 ○年間読書冊数一人100冊以上	① 学校図書館協力員による図書室整備と蔵書の充実 ○ 繼続的な図書室整備と計画的な図書購入による蔵書の充実 ② 朝の時間の活用 ○ 朝の読書の実施 ○ 「幸ヶ丘読み聞かせ生駒」や職員、西小林中学生によるオンライン読み聞かせを通した読書への関心意欲の向上 ③ ノーメディア・読書量アップ週間（年4回） ○ 家庭と連携した読書の充実とメディアへの接触時間の削減 ④ 家読の推進 ○ 家庭での読書推進の啓発 ⑤ 図書館の保護者開放・貸出	3	3	○週1の図書館協力員の来校により、図書室整備を行うことができた。 ○定期的に読み聞かせが行われ、本への意欲、読書の意欲が高まった。また、中学生とのオンライン読み聞かせも少しずつ定着してきている。 ●ノーメディア・読書量アップ週間を計画的に行えたが、改善策を提示することができなかつた。ノーメディアの週間に合わせて体力アップ週間をするのもいいかなと思った。 ●家庭で親子がより積極的に読書をするための方策を考える必要がある。まずは保護者や先生が読む姿を児童に見せて、一緒に読む機会を設定するとよい。
	5 家庭学習の充実	5 ○家庭学習の確実な見届け ○「家庭学習チャレンジ週間」の活用と学習状況のチェック	① 担任による確実な見届け ○ 個に応じた課題 ○ 学習意欲を喚起するための提出物への確実な見届けと称賛 ② ノーメディア・読書量アップ週間に「家庭学習チャレンジ週間」を実施。 ○ 家庭学習の手引きを活用 ○ 家庭での振り返り状況の把握と対策	3	3	○担任を中心に課題の確実な見届けを行い、やり直しを行わせた。また個人に応じた指導を繰り返し行うことで、定着が少しずつ図れた。 ●個人差があるため、宿題の量などを調整する必要があつた。個人差に対応した課題作成も必要と思うが、なかなか難しい状況がある。 ●家庭学習の手引きを、4月の懇談で知らせることができたが、なかなか浸透せず、振り返りが活かされなかつた。
徳	重点目標： 豊かな心の教育の推進 【手段】 1 西小林中学校区のきまり定着100%と集団規律の徹底	1 ○「学習・生活の構え」についての意識の高揚（立腰及び鉛筆の正しい持ち方定着100%）	① 全職員による共通実践と意識の継続化 ○ 全職員による重点指導事項の共通理解・共通実践 ○ 常時指導（意識付けの言葉かけ等）による立腰・鉛筆の持ち方の徹底 ○ 無言の場・集団行動時の規律等の徹底 ② 基本的生活習慣の確立 ○ 3校合同生活目標の具体的指導	3	3	○学校生活における児童の活動の中で、きまりなどが曖昧に理解して行動する部分が多くたが、指導を行うことで少しずつ改善されてきている。 ●常時指導において、教師がもう少し意識した指導を行い、児童にも意識した行動をさせたい。 ●共通実践事項において、学校の規則などまだ検討の必要がある内容があるので、今後修正していきたい。

育 徳 育	2 道徳教育の充実 3 朝のボランティア活動の活性化 4 みどりの少年団活動の活性化 5 自信と達成感の涵養 6 教育相談の充実	○3校合同の学習 ・生活のきまり の100%徹底				
		2 ○「考え、議論する」道徳指導の工夫	① 道徳研修の実施・別葉の活用 ○ 令和5年3校合同研究公開で培った「考え、議論する」 道徳指導の実践 ② 道徳授業の保護者参観の設定 ○ 7月参観日の道徳の参観授業の実施 (人権関係)	2	○道徳の資料について整理することで、資料の精選が できた。 ●前年度の道徳研修が活かされず、実践はなかなかでき なかつたので、再度、研修で培った内容の見直し を行い、今後の実践に結び付けていきたい。 ○7月の参観日において、授業を行うことで、人権感 覚を意識させることができた。	
		3 ○参加率100%	① 環境整備を通した奉仕の精神、愛校心の涵養 ○ 校内清掃の内容の充実と自主的な取組への啓発 ○ 賞賛と支援による活動の充実	3	○児童が朝のボランティアや花の水やり等を進んで行 うことで、奉仕の精神を培うことができている。 ●教職員への啓発も必要である。	
		4 ○栽培活動の充実	① 卒業式に向けた一人二鉢栽培の実施 ② 学級園等における栽培の実施 ③ サツマイモ栽培と収穫 ④ みどりの少年団の募金活動の実施	3	○卒業式に向けた花の栽培と世話を児童が丁寧に行つ ている姿がよく見られる。 ●休日の花の水やり等が課題である。 ○生活科の時間を活用し、栽培活動ができた。 ○さつまいも栽培を教室前にしたことで観察や世話を する意識をもつようになった。 ●みどりの少年団としての活動（学校外での募金活動 など）がなかなかできない現状がある。	
		5 ○「幸ヶ丘太鼓」 の取組 ○外部講師招聘 ○多くの発表機 会の設定 ○1児童1作品 の入賞・新聞等 掲載	① 太鼓指導の充実 ○ 外部指導者（響座）と職員による指導の実施と内 容の充実 ② 多くの発表機会の設定 ○ 運動会、音楽大会、学習発表会、卒業式、県太鼓 フェスティバル等での発表 ③ 積極的な作品応募・作品投稿 ○ 各種作品展やコンクール、宮崎日日新聞「若い目」 や詩歌等への作品掲載を通しての自信と誇りの涵養	3	○練習をしっかりと行い、多くの会において全員で披露 することで、大きな自信につながっていると感じる。 響座の今村さんの指導に大変感謝している。 ●練習時間の確保が課題である。時間をうまく設定す る必要がある。 ○長期休業の作品募集を選定し、積極的に応募するこ とができた。 ●宮日の作品募集には応募することができなかつた。 さらに児童の作文を書く力を持つ必要がある。	
		6 ○月1回の教育 相談・すこやか 委員会の実施	① 教育相談の充実 ○ 月1回教育相談アンケートを通しての児童の人間 関係や家庭状況、心の状態等の把握といじめ等の早 期発見 ② すこやか委員会の実施 ○ 教育相談の結果を全職員で共有し、問題行動等へ の早期解決への協議と共通実践	4	○月1回のすこやか委員会の実施により、児童理解が 全職員で共有し、対応することができた。 ○児童数が少ない分、児童一人一人のことを職員間で いつも話すことができている。 ○保護者と地域の方々と学校が一緒に児童を見守って いる環境があるので、大きな問題は起こらない状況 がある。今後も続けていきたい。	

体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 【手段】 1 個に応じた体力向上の推進 2 外遊びの推奨 3 基本的な生活習慣の定着 4 肥満率の解消 5 無欠席年間日数 6 むし歯治療率向上	1 ○新体力テスト 5%アップ	① 体力の把握と体力向上プランの策定 ○ 児童一人一人の体力の把握と体力向上プラン策定 ○ 体育学習指導の充実（重点化） ○ 体力向上のための遊びの奨励 ○ 家庭と連携した児童の体力の状況周知と体力向上 のための取組の共有	3	○体力テスト向上のためのカードや場づくりを行 うことで、自分たちで目標を立てて取り組み、意識の 向上につながった。 ○星休みの遊びは有意義だと思う。 ●学校だけでなく、家庭でも取り組める活動を提案す る必要があると考える。	
		2 ○週1回の「幸っ 子パラダイス」 の実施	① 「幸っ子パラダイス」 ○ みんなで外で遊ぶ機会の設定（毎週木曜日）	4	○みんなで遊びたいものを自分たちで決めて、一緒に 仲良く楽しむことができている。 ●遊ぶ内容が同じになってしまっているので、教 師側から遊び方の提案もしてみたい。	
		3 ○朝ごはんを食 べてくる児童 100% ○「ノーメディア デー」の定着 100% ○感染症対策	① 保健指導の充実 ○ 朝食の内容充実のための保護者向け啓発活動（家 庭での食習慣について親子で振り返る週間の設定） ② 保護者への啓発 ○ 学校保健委員会における指導の実施 ③ 「ノーメディアデー」の計画と実施 ○ メディアの弊害の講話や文書を活用した意識の高 揚 ○ 家庭教育学級の場を活用した家庭との連携 ④ 手洗いや消毒、換気の励行	2	○学校保健委員会では、栄養教諭を講師として招いて 学童期の食事と健康についてお話していただき、保 護者にも啓発を行う良い機会になった。 ○学級活動の時間を使って感染症予防のための話を 全学年を行い、手洗いや消毒、換気、抵抗力を高め ることの大切さを児童に啓発することができた。 ●ノーメディア週間をする意味など理解させること が必要だと思った。 ●感染症対策として、養護教諭を中心に換気の呼びか けをもっとすべきであった。寒い時期は今後も継続 していきたい。	3
		4 ○対象児童への 保健指導の充 実	① 保健指導の充実 ○ 家庭への協力要請と運動と生活面における保健指 導の実施 ○ 学校保健委員会での外部講師による保健指導の実 施	3	○学校保健委員会で栄養教諭におやつの取り方につ いて話をしていただき、児童と保護者が一緒に食生 活を見直す機会となった。 ○全校集会や学級活動の時間、掲示物等を通して健康 への意識づけを行うことができた。	
		5 ○全員登校の日 100日以上	① 健康への意識向上と欠席日数の減少 ○ 元気で登校できることのすばらしさの話 ○ 日常の健康観察や保護者との連携の充実 ○ マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒、3密回 避等	2	●全員登校の日は少ない現状があるため、健康に生活 するための規則正しい生活について継続的に啓発 していく必要がある。	
		6 ○むし歯治療率 100%	① 家庭への啓発 ○ 健康診断後及び長期休業中の治療勧告の実施 ② 児童の意識の高揚 ○ フッ化物洗口とむし歯予防の指導（歯みがき指導） ○ 保健指導や学級活動における指導の充実	3	○健康診断後はすみやかに治療勧告ができた。さら に、保護者がすぐに児童を病院に受診してもらった おかげで、むし歯治療率は100%だった。 ○全学年に歯みがき指導を行い、歯と口の健康につ いての意識を高めた。 ○フッ化物洗口も毎週定期的に実施できた。	
食	重点目標： 望ましい食習慣の育 成 【手段】 1 給食指導の充実	1 ○残菜0 ○正しい箸の持 ち方100%	① 偏食指導及びマナー指導 ○ 給食時間を利用しての指導の充実 (自分に合った食事量・偏食・食事のマナー・箸の正 しい持ち方など)	2	○無理な時は、残すことができるというのは、子ども 達にも安心感がある。 ○給食時間に栄養教諭を招き、食事のマナーをはじ め、箸の持ち方の指導を行い、意識づけることができた。 ●食事のマナーの指導については、給食時間ではなか なか時間の確保が難しいので、授業時間を使って、	3

育 育	2 体験活動の充実	2 ○栽培活動の推進 ○各種教室の実施	① 栽培活動との関連を図った指導の充実 ○ 食への関心の向上 (梅ちぎり活動・サツマイモや野菜の苗植え・栽培・収穫など) ② 外部機関による食体験の充実 ○ モーモー教室や味覚の授業等の実施を通じた食の体験の充実 ③ PTAと連携した体験学習 ○ 魚のつかみ取り大会・魚のさばき方教室の実施	3	もっと詳しく指導してほしいと感じた。 ●箸の持ち方がまだ上手にできていない児童がみられるため、継続して指導、見守りを行う必要がある。 ○残食も年度当初と比べると減ってきている。 ○栽培活動は、積極的に行うことで、児童も興味関心をもって取り組むことができた。 ●栽培活動について少人数で毎年行うには結構な労力がかかるため、隔年または活動を精選して行うよいのではないかと思う。 ●つかみ取り大会は、子ども達の一番の楽しみではあるが、準備の段階でプール掃除があり、その活動のためだけに行うのは負担であるので、今後検討していく必要があると考える。 ○栽培活動や PTAと連携した体験学習を通して、食への関心の向上に繋げることができた。 ●外部機関による食体験については、去年も同様のことを行っているため、今年度は実施を見送ったが、次年度は積極的に連携をし、食体験の充実を図っていきたいと考えている。 ○夏季休業中の食の贈り物は実施率100%だった。保護者の協力に感謝している。 ●弁当の日、食の贈り物が夏休みに実施されたが、実施後の掲示等、工夫が必要である。 ○保健だよりを通して家庭での望ましい食生活の啓発も健康と併せて行うことができた。
	3 家庭との連携 (弁当の日の実施)	3 ○弁当の日・食の贈り物 in 夏休み ○文書による保護者への啓発	① 弁当の日・食の贈り物 in 夏休みの実施 ○ 学年に応じた遠足の日の弁当づくりや夏季休業中における家庭での調理体験を通じた食への関心の向上と感謝の心の涵養 ② 家庭での望ましい食生活の啓発 ○ 定期的な、または適宜に発行する「保健だより」や「食育だより」を通じた保護者への啓発	3	○夏季休業中の食の贈り物は実施率100%だった。保護者の協力に感謝している。 ●弁当の日、食の贈り物が夏休みに実施されたが、実施後の掲示等、工夫が必要である。 ○保健だよりを通して家庭での望ましい食生活の啓発も健康と併せて行うことができた。
	1 重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1 ○小小・小中の交流学習年4回以上実施 ○幼保小連絡協議会年2回実施	① 交流学習、幼保小連絡協議会の充実 ○ 情報の共有や職員間の親睦、小1プロブレムや中1ギャップへの対応体勢の整備のための計画的な交流活動を実施 ○ 保育園や幼稚園との共通実践、連携をはかり、一貫した教育への取組（新入児の所属園とも連携） ○ かおる幼稚園との交流 ○ 西小林保育園視察研修	3	○幼保小連絡会議において、情報交換が行われたことはとても有意義であったと感じる。 ●幼保小と中学校とも行うと、よりよい会になるのでは感じた。 ○職場体験は、とても有意義であったが、準備に時間も必要である。 ○かおる幼稚園に1・2・5・6年が訪問して、園児と一緒に楽しく活動することができ、良い経験となつた。
その他	2 学校運営協議会の推進	2 ○学校運営協議会の年3回実施(中学校区年2回実施)	① 学校運営協議会の実施と内容の充実 ○ 開かれた学校づくりに努めるため、学校行事と関連させた学校運営協議会を実施 ○ 学校評価の実施と運営協議会委員の意見を取り入れた改善	4	○計画通りに実施することができた。 ●学校運営協議会と学校、地域のつながりがもっとできる会を開催できればと思う。 ○今回、幸っこフェスタにおいて地域の方々、市議会議員、ボランティアの方々に集まつてもらい、生駒・幸ヶ丘のこれからについて熟議を行った。この活動により、地域との連携がより深まったように感じる。このような活動を今後、学校運営協議会と連携して行いたい。 ●話合いの継続性と児童の話し合いの中で出た意見を地域や小林市でどれぐらい実現できるかを今後検討していく必要がある。
	3 防災教育の推進	3 ○学校における避難訓練年4回実施 ○地域と連携した防災学習の充実	① 避難訓練の実施 ○ 地震・火災・風水害（噴火）・不審者対応の4つについての避難訓練を実施 ○ 南体育館への二次避難 ○ 警察署や消防署との連携 ② 「自分の命は自分で守る」ことを主眼に、家庭や地域においても率先避難者となれるような教育の推進 ① 生駒・黒原自衛消防団・赤十字奉仕団・小林市SVCセンター（小林災害ボランティアコーディネートセンター）・小林市危機管理課防災専門員との連携 ② 災害に備えた備蓄	3	●備蓄に関して職員の共通理解が必要である。 ○避難訓練は、とても効果的であった。特に火災の避難訓練は、児童に伝えることなく行われ、煙体験まで行ったので、貴重な体験ができた。また、風水害の時には、市役所の防災訓練と連動して行うことができた。 ○災害時と同様の動きで、児童も保護者も命を守る行動ができた。今後は、地域や市と連携してより具体的な避難訓練ができるとよい。 ●本年度は防災教育に関する活動が少なかったので、次年度、西小林中学校区で地域の方々を中心に行う計画を立てている。もっと地域の方々と話す機会をもちたい。
	4 信頼される教職員の育成	4 ○コンプライアンス研修月1回実施 ○不祥事等の発生0件	① コンプライアンス意識の向上 ○ 毎月1回、コンプライアンス研修（交通安全や体罰、ハラスメント、情報漏洩など様々なテーマ）の実施 ○ 学校内から不祥事を出さないという意識の向上	4	○月1回のコンプライアンス研修を受けることで、意識向上につながった。 ○毎月の研修を受け、常に意識した行動ができるよう。 ○先生方の意識は高いので、今後も継続して行うことを行いたい。

次年度の方向性についての校長所見	本校は、生徒指導面での問題もなく、大変落ち着いた学校運営ができておらず、児童の健全育成の観点からもとても充実している。今後の状態が次年度も続くように全力で取り組んでいきたい。そんな中においても、学校職員からは4つの領域（知育、徳育、体育、食育）全てから、更に工夫、改善することでこれまで以上によいものにしたいという思いからの意見が数多く挙げられた。そこで、次年度はこれらの意見を踏まえ次の点に取り組んでいくようとする。具体的には、基礎基本の定着や思考力・表現力育成のための授業改善、ICTの効果的な活用等に取り組み、学力向上につなげていく。また、小中一貫教育、幼保小連携、家庭学習、体力向上、メディア対応、各種行事運営において、他校、家庭、地域との連携を更に工夫、充実させる必要性が見えてきたため、重点的に検討し実施していく。また、大きな地震があったこともあり、防災教育についてのニーズが高くなっている。次年度西小林中学校区での取組も検討されているため、本校の現状を踏まえ企画、運営していくようにする。
------------------	---